



「アベ政治を許さない」のパネルを一齐に掲げる参加者＝11月28日、岐阜県大垣市

決してあきらめない

岐阜・大垣 戦争法廃止へ集会

「私たちは決してあきらめない」。岐阜県大垣市で11月28日、「戦争法の廃止を求めよう」という行われ、50人が参加しました。主催は、80歳以上の戦争体験者6人が呼びかけた「戦争法の廃止を求める有志の会」。

司会進行を務めた同会世話人の神戸利尚さん(86)があいさつし、同世話人の長谷川金重さん(80)は、会への賛同者が150人に広がり、募金の協力で3万数千枚のアピールビラを作製し、新聞折り込みで多くの市民に知らせたことを報告しました。

市内の高校2年の女子生徒(17)が発言。「学校で憲法は政府をしばる立憲主義と学び、戦争法の危険性も知った。デモに参加しなかったら後悔するの。高3受験生の新聞記事を

見ても、これまでの自分には負けていた。戦争法が強行されたから終わりじゃない」と気付かされた。戦争法をなくすために、いまから自分でもできることがある。来年の選挙で、18歳を迎える仲間につきこんど話して、戦争のない政府をつくること。後悔しないよう意思表示していきたい」と決意を語りました。「ロシアとの友好をすすめる会」理事長の横山周導さん(91)は、シベリア抑留犠牲者の墓参りに奔走した経験を語り、「悲しい、恐ろしい、無駄な戦争は絶対やっつけてはならない」と呼びかけました。「パパママの会」の小林敬子さん(61)は「ライン仲間で勉強会をやり、2000万署名をすすめたい」と語りました。会場からも活発な発言があり、「駐車場に9条・原発シールを貼り、今度は署名で動く」(女性)と自ら勇気を出して変化していった様子などが語られました。